

光あるものを感じ陰に佇む

日本の寺社仏閣や日本庭園などで見かける大きな岩や松の木などの植物、石灯籠のような人工物などが日光から遮られた陰や薄暗い空間にぽつんと佇む様子や、ベランダからの間接光のみの状態の自宅のリビングの雰囲気を感じ、そのような空間を住宅の中庭や公園、観光地などにつくることができないかと思い新しい和の空間として表現しました。



静陰(せいゐん)

この手法では、日の光に照らせれるものと日の光を遮るものによって生まれる陰の空間の双方が必要であり、双方の空間に物理的な隔たりがないことによって互いの空間を認識し、しばらくして自分がいま立っている空間に意識が向かってきます。日の当たるところから陰の中にあるもの（今回は岩）や陰の空間そのものに趣を感じ、さらに自分が陰の空間に入りこむと日の光にふれるものとの対比から静寂が訪れ、やがて心の静けさから時の流れの変化を感じられることでしょう。

